

おまえざき



# 市議会だより

第37号

2013.10.11.12月

平成26年2月発行

- 1 議長あいさつ
- 2 12月議会定例会
- 3 本会議質疑・委員会質疑
- 4 委員会報告
- 5 一般質問
- 7 議員視察研修

# 初春

## いもじいさんの碑

江戸時代の中期・明和3年(1766年)御前崎沖で薩摩藩の御用船「豊徳丸」が難破し、船員24名を大津権右衛門(1694~1778年)親子らが助けました。薩摩藩からのお礼の金20両を断り、積んでいた3種のさつまいもを譲り受け、栽培方法を教わりました。これが御前崎にさつまいも栽培が普及したきっかけと言われており、権右衛門は「いもじいさん」と呼ばれるようになりました。村人たちは権右衛門の功績をたたえ、百年忌に当たる明治11年(1878年)、海福寺に供養塔「宝きよう印塔」を建立。明治41年(1908年)に「いもじいさんの碑」を建立。毎年10月10日に追善供養が行われています。昭和49年9月19日、市指定有形文化財に指定されました。

宝きよう印塔

新年あけましておめでとうございます。  
皆様方には、輝かしい新春をご家族お揃いで健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また議会に対し、日頃より深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。



議長 西島 昌和

昨年を振り返りますと、6月に富士山世界遺産登録が、9月には東京オリンピック開催も決定するなど明るい話題の年でもありました。

日本経済はアベノミクス効果により、中小企業では回復の足取りが遅いと言われていますが、全体的な景気は回復基調にあります。

世界経済の流れもアジア市場の潜在的な成長力に注目が集まり、経済圏や産業構造など大きく変わりつつあり、日本のものづくり技術を活かした技術立国の再生が期待されています。

少子高齢化とともに人口の減少が進み、企業誘致も思うように望めない今、市内産業の活性化は重要な政策課題であります。

将来の御前崎市を担う子供たちの学校教育の充実や子を持つ親への子育て支援は市を挙げての取り組みが必要です。

また建設中の農業振興拠点施設は、6次産業の創出及び情報発信による観光誘客や活力ある産業の振興拠点として期待をされています。

議会としても、将来を見据えたまちづくりを模索し、市民が安心して生活できる防災対策にも議会提言を通して積極的に取り組んでまいります。

中部電力浜岡原子力発電所では、現在地震津波対策や新規制基準に対応した工事を実施しております。市議会は中部電力に対して、原子力発電所の安心安全対策と雇用景気対策について3項目の要請をしました。

今後とも原子力発電所の更なる安全性の確保などの監視に最善を尽くしてまいります。

議会においては、開かれた議会をめざして議論を重ねております。将来的な議会基本条例の制定に向け、今後も議会改革を進めていくとともに、今後とも、市民の皆様のご期待に沿える市議会となるように一層の努力をまいります。

結びに、市民の皆様にとって本年が明るい年であるよう心から祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。